

# ★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

232号



2020年1月26日

常盤台の景観を守る会

常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

## — 都心低空飛行問題について —

### ○ ANAもJALも減便

世界的に航空界はコロナによって減便を余儀なくされているが、以前の水準に戻るのには2024年どころか2026年になるだろうとの見通し。必要も無いのに新航路で都心を飛ばすのは人間としての思いやりに欠けていませんか。品川や港区の人達の苦しさを想像できないのでしょうか。

第二次世界大戦でのインパール作戦等々、日本軍の敗北を決定づけた「賢明なる撤退」のできない体質と同じで、落胆と恐怖さえ覚えます。何という愚かしさ！

### ○ 成田では嚴重な洋上の車輪出し

私たちが頭上を飛ばれて不安なのは、車輪周りに高度飛行でついた氷塊が、着陸前に脚出しする際に落下することです。「海から海へ」方式ではこの問題はほとんど無かったのですが、成田では内陸へ入る前に洋上で脚を出すよう要請し、望遠鏡で監視をしているそうです。

4年前の2017年2月18日のNHKの朝のニュース番組での特集を保存していたOさんが、youtubeにアップしました。

[https://youtu.be/Vl6ghDq\\_eg4](https://youtu.be/Vl6ghDq_eg4)

千葉で洋上での脚出しを嚴重に見張っているのに、東京では都心の真上で脚出しをしているのは野放しです。海外からの大型機が増えれば氷の落下は必至、責任は誰が？

○ 羽田空港の新飛行経路に関する電話相談窓口は、2021年2月1日以降は、0570-001-596（ナビダイヤルに接続できない方は050-3655-5960）となっています。

### ○ 南宇都宮駅リニューアル

「マンスリーと一ぶ」新年号に昨年11月20日、宇都宮線の南宇都宮駅のリニューアル工事が完成したというお知らせが出ていました。

何度かお伝えしてきましたが、常盤台駅とは兄弟駅でどちらも大谷石造りです。

今回の改修では壁面の大谷石を補修・保存した上に、屋根瓦を開業当初の色を再現して葺き替えたとのことですが、その色はときわ台駅と同じ青緑色です。私たちが数年前バスで訪れた時は薄いオレンジ色で、常盤台駅の青緑と好対照を成していると感じたものでしたが、南宇都宮駅も竣工当時、本当に同じ色だったのでしょか。ちなみに南宇都宮駅は宇都宮市の景観賞を、ときわ台駅は板橋区の景観賞を、それぞれ受賞しています。

### ○ 新中央図書館は3月28日開館

平和公園に建設中の新中央図書館は、いよいよ3月28日（日）9時にオープンします。

当日は何か記念のイベントでもあるかと思ったら、やはりコロナの影響で予定はないが、もし何かあればHPでお知らせするそうです。

ついでに常盤台公園の旧中央図書館の解体はいつか聞いてみましたが、今のところ決まっていないという返事でした。

常盤台住人にとっては遠くなってしまった図書館、3月までは小茂根や氷川町まで行かねばなりません。

### ○ オリンピックはどうなる？

そろそろ中止か延期の話が海外でも取りざたされてきました。コロナで医療崩壊している日本で開催できるのか疑問だらけです。克服できていないのに、「克服した証し」とは？



## このまちの野良猫(2)

野良猫がお腹を空かせているようなので、つい餌をあげるといふ人がいます。その一方「餌をやるから野良猫が増える」とクレームを言う人がいます。どちらの気持ちも理解できますが、どちらも少しずつ間違っています。

まず、餌をやるから猫が増えるのではありません。どんなに飢えていても、雌猫は季節になると子猫を産みます。「餌をやるらないこと」イコール「子猫の誕生を防ぐ」ではないのです。では、野良猫に餌をやることはいいことなのでしょうか？

野良猫の生活は過酷です。必死にごみをあさって餌を探し、温かい寝床を探しながら、その寿命は三〜四年。生まれた子猫で生き残れるのはほんの一割と言われます。昨年も交通事故にあつて命を失った猫が何匹もいましたし、冷たい雨が続いた日に庭の片隅で死んでいた子猫もいました。また、カラスやハクビシンに襲われることもあります。

可哀相だからせめて飢えないよう餌をあげたいという気持ちはわからないではないですが、餌やりは「野良猫を減らす」という目的のもとに行われなければなりません。全部の猫を飼ってやれないのですから、望まれない命をでさるだけ少なくするのは、猫のためでもありません。不妊手術をせずに餌だけやるのは、自己満足で無責任な猫愛です。

常盤台では有志が協力して野良猫を捕まえて、不妊手術をしてきました。手術をすれば、その猫は一代限りで増えることはありません。

猫を元いた場所に放し、飢えることのないよう餌を適量やりながら、その一生を見守ります。

野良猫をすぐに排除したい人にはまだるっこく思えるかもしれませんが、殺処分など後味の悪い思いをすることなく、数年かけて野良猫を減らすのが目的です。それでも、餌やりにはマネーやルールがあります。次回はそれについてお話したいと思えます。

N・Y

## 昭和初期の常盤台のお正月

常盤台でも代替わりが進み、分譲当時の初代から今は二代目、三代目が住んでいる街になりました。その昔のお正月の風景を覚えている方はご健在でしょうか。

鳶のひとたち(消防関係)が家々の前にやって来て、はしご乗りを披露するのが面白く、年賀に来ていた親戚もみんな楽しんでました。獅子舞は頭を噛んでもらうと風邪を引かない、とかいうことで、門付けというのでしょうか、ご祝儀を目当てに三河万歳のような二人連れが来たり、松が取れたかどうかのうちに詠歌を詠う老夫婦が訪れてきて、きれいな鈴の音を聞かせてくれたものです。晴れ着姿の人々で、街全体がお正月は晴れやかでした。

あの頃の大人たちは皆鬼籍に入り、ひどい戦争中はまだ子どもで、集団疎開をしていた人たちも八十代・九十代となつておいででしょう。

街の姿もどんどん移り変わり、昭和初期の懐かしい面影を残している街は少なくなりました。良いものは残したい、この街に散在する木造の住宅群は、おそらく後世に残してほしい宝だと思えます。

K・M

## 常盤台公園のはなづくり

十一月に植えたパンジーの花がら摘みが旨く出来ません。理由は野良ネコのトイレ化対策の伏せた籠にあります。それをどかさないと花がらを摘めません。やつとkさんに応援していただいで全部の株の花がら摘みをしました。一度で済むものでもありません。

好天続きで、地下のチューリップへの水やりが少し心配です。と思つていたらTさんがホースを出して水やりをしてくれました。感謝!

公園ではカラスの数が減つたように思いますが、他でも同じような感想を聞きました。しかし、多分スタジイの木は今年も巣をかけようと狙われているようです。

駅のホームから左側のロータリーに目をやると、ケヤキのてっぺん近くにカラスの巣が見えます。冬木立の中なので目立ちます。針金のハンガーが突き出ていて、なかなか頑丈な作りになつていようです。卵が孵らないうちに撤去してほしいと思つのですが、自然保護団体からは異議が出そうです。カラスが賢くて可愛いということを知っていますし、何事も自然に任せべきだと言うのも分かるつもりですが、やはり人間のゴミによって増殖しすぎた鳥なので、童謡にあるように「カラスは山に帰って貰いたいものです」。

